

近代の肖像

危機を拓く

第503回

『日本文庫』の創設

小樽商科大学教授

荻野 富士夫

の基礎を築き、キーンさんらを育てるといふ、文和28年、埼玉県生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。専攻は日本近現代史。著書に『戦後治安体制の確立』『多喜二の時代から見えてくるもの』『太平洋の架け橋者 角田 柳作』などがある。

1877（明治10）年、群馬県勢多郡の赤城山麓（現在の渋川市）の

アメリカ本土に渡り、ジョン・デューイに魅かれ、コロンビア大学の聴講生となる。ニューヨークの日本人会書記長として生活の糧を得るなかで、排日移民問題に直面し、日本とアメリカの相互理解の不足を痛感した角田は、日本人会書記長の職を辞して、日本の文化情報を「文化情報局」の創立に就くとして、1927年から28年にかけて、資料収集と資金募集のため日本に戻った。角田は「人間の他国他種の文化に対する純真の興味とあこがれとは、論議化され、哲学化された。伝説教よりも、実物、モロメロ、コロンビア大学にノ其自体に具わる不逞不語の大説法に因ることが多い」（『中外日報』1929年6月）という確信をもっていた。東亜図書館として発展

米国で「日本学」の基礎築く

角田 柳作 ①

社などに勤務し、1889年には京都真言宗連合高等中学校で教鞭をとりつつ、真言宗を中心に学ぶとともに、宗教全般にも深い関心をもった。福島中学・仙台一中で英語・倫理学を教えた後、1909年、本願寺ハワイ

教科書編纂にもあたる。1914年には仏教の奔走が始まっている。当初、「小形の日本博物館関係者に協力を呼びかけ、展覧会、陳列所」た。難航したもの、三菱の岩崎小弥太が強力なスポンサーとなったこと

1926年頃から角田に働きかけるほか、京都なども回り、旧知の仏教関係者に協力を呼びかけ、展覧会、陳列所」た。難航したもの、三菱の岩崎小弥太が強力なスポンサーとなったこと

東京とNYに日米文化学会設立

3年後、ハーバード大



角田柳作（1877～1964）

在米生活が中心だった

東日本大震災を機にコロンビア大学のドナルド・キーンさんが日本永住を決意したことは、多くの人に勇気を与えた。日に、角田はアメリカに深い愛情を注ぐ、キーンさんを日本研究に向かわせることになったのは、コロンビア大学4年次の1941年9月、角田柳作と出会ったことである。数週間はたった一人の受講生のために「日本思想史」が講じられた。

農家の次男として角田は生まれる。東京専門学校

1927年から28年にコロンビア大学図書館が受けることになる。33年末には1万3千冊、38年には2万5千冊と増加し、「日本

この「日本文庫」拡充のため、角田は1929年7月、32年、36年、38年に日本に戻り、資料収集にあたった。33年末には1万3千冊、38年には2万5千冊と増加し、「日本